

1. 目的

新型コロナウイルス感染症収束後における富山きときと空港の目指すべき姿を描くとともに、実現するために必要となる取組みや進め方を検討する。

2. 構成

空港経営改革に携わった経験を有する学識者、航空関係者、観光関係者等から選任した委員等9名（委員8名・オブザーバー1名）により構成する。

3. 検討事項

(1) 富山きときと空港の現状と課題整理

(2) 富山きときと空港の潜在需要と将来需要予測

(3) 富山きときと空港の将来像の検討

- ・新規路線の誘致、空港ネットワークの拡充
- ・空港の機能向上、機能付加、利便性向上
- ・空港及び後背地を含む地域活性化方策、近隣空港・近隣県との連携方策
- ・上記を踏まえた新型コロナウイルス感染症収束後の目指すべき姿、産学官の取組みの方向性 等

(4) 富山きときと空港への民間活力の導入手法の検討

- ・先行事例の民間活力の導入に係る背景や効果
- ・導入可能と考えられる運営手法と官民の役割分担検討 等

(5) 上記を踏まえた「富山きときと空港の目指すべき姿と取り組むべき方向性」のとりまとめ

4. 検討スケジュール

第1回 令和3年8月

- ・検討会議の設置趣旨
- ・空港の現状と課題の確認
- ※空港の現状と課題等を踏まえた議論

第2回 令和3年11月

- ・目指すべき姿と取り組むべき方向性の骨子を提案（中間報告）
- ※将来需要予測調査結果を踏まえた議論
- ※新型コロナウイルス感染症収束後の目指すべき姿、産学官の取組みの方向性など空港の将来像についての議論
- ※民間活力の導入手法の検討と官民の役割分担のあり方についての議論

第3回 令和4年2月

- ・目指すべき姿と取り組むべき方向性のとりまとめ（最終報告）
- ※上記の議論を踏まえたとりまとめ、最終調整

5. 企画・運営等

会議の開催主体は富山県とし、企画・運営等については総合交通政策室及び株式会社日本経済研究所を事務局とする。